

平成26年度	年間	環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成24～28年度）										
●重点プラン 1 水辺環境の保全、整備と農地の保全（生き物にやさしい環境づくり）												
●目標 ～みんなで目指す平成28年度の姿～ □夏の夜、水辺にはたくさんのホタルが飛び交っています。 □水田には、これまで見られなかった小魚や昆虫が見られるようになりました。												
～みんなで目指す平成28年度の姿～ 関連指標進捗状況			担当課		過去の状況						平成26年度	年間
					H22	H23	H24	H25	H26	H27	整備状況	
関連指標	□公共下水道人口・合併浄化槽人口比率 83%		上下水道課 環境防災課		74	76	77	79	84		84	%
	□多自然型水路箇所数 2箇所		街づくり推進課		1	1	1	1	1		1	箇所
	□ホタル生息地箇所数 4箇所		環境防災課		4	4	4	4	3		3	箇所
プロジェクトの取組状況			評価 A: 100% B: 50～100%未満 C: 0～50%未満 D: 未実施									
プロジェクト名	取組内容	担当課	過去評価				平成26年度 年間				評価	今後の課題
			24	25	26	27	取組状況					
プロジェクト1 河川・水路の適切な 維持管理の推進	○町は、水辺環境の保全を町民・事業者と協働で実施します。 ☆町民は、せせらぎボランティア（里親制度）に登録します。 ☆河川・水路への不法投棄ゼロをめざし、町民・事業者・町の協働によりごみ拾いを行うなど、不法投棄防止に向けた啓発事業を行います。	環境防災課	B	B	B						B	既存イベントの改善、ニーズや必要性を把握し、新規イベント等の検討も行う。
プロジェクト2 生き物の棲める水路 づくり	○町は、河川・水路の改修にあたって、生態系に配慮した整備に取り組めます。 ☆町民はホタルの乱獲防止の巡回指導など、ホタル生息地の保全・拡大に向けた取組みを継続的に実施します。	街づくり推進課	D	D	D						D	計画的に水路整備を実施していく。周辺の環境に合わせた護岸構造を検討する。
		環境防災課	A	A	B						B	生息地保存に向けた研究会への支援を継続する。 保全に対する近隣住民の理解や協力を得る。
プロジェクト3 休耕田の活用や生き 物が棲める水田づく り	○町は、農地荒廃防止のため、積極的なあつせんに努めます。 ☆農家は、ヤゴなどの水生生物が生息できる水田づくりに努めます。	産業振興課	A	A	A						A	○利用権の設定を継続して、進めていく

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となる取組み

平成26年度		年間	環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成24～28年度）							
●重点プラン 2 生ごみの減量化（生ごみの減量・資源化と堆肥の利用）										
●目標		～みんなで目指す平成28年度の姿～ <input type="checkbox"/> 生ごみの分別収集が複数の自治会で展開され、生ごみの堆肥化・資源化が推進されています。 <input type="checkbox"/> 農家・公園・菜園等で生ごみ堆肥を利用し、農産物の生産をしています。 <input type="checkbox"/> 朝市や直売所により、町民は地元で生産される農産物を積極的に購入しています。（地産地消）								
～みんなで目指す平成28年度の姿～ 関連指標進捗状況		担当課	過去の状況					平成26年度	年間	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	整備状況	
関連指標	<input type="checkbox"/> 家庭系ごみの住民1人、1日あたり排出量 700g	環境防災課	737	736	734	729	708		708 g	
	<input type="checkbox"/> ごみの資源化率 40%	環境防災課	32	31	32	32	31		31 %	
	<input type="checkbox"/> もえるごみの量 2,480t	環境防災課	2,918	2,959	2,975	2,962	2,937		2,937 t	
プロジェクトの取組状況		評価 A: 100% B: 50～100%未満 C: 0～50%未満 D: 未実施								
プロジェクト名	取組内容	担当課	過去評価				平成26年度 年間		評価	今後の課題
			24	25	26	27	取組状況			
プロジェクト1 町全体で生ごみの分別収集と堆肥化の推進	○町は、もえるごみの減量化に向けて、上延沢自治会が実施した生ごみ分別収集堆肥化と農産物への利用実験結果を踏まえて、生ごみの分別収集と堆肥化を推進します。 ☆町民は、生ごみの分別を積極的に実施します。	環境防災課	C	C	C			C	生ごみ処理の普及拡大に向けた来年度の周知方法や予算措置を検討する。	
プロジェクト2 生ごみ堆肥化の活用	○町は、公共施設などに生ごみ堆肥を積極的に活用するとともに、農家や家庭菜園などへの活用を促します。 ☆町民は、農場や家庭菜園等で生ごみ堆肥を積極的に活用し、特産品の生産を行います。	産業振興課	B	A				A	○継続して周知活動をしていく。	
		環境防災課	C	C	C			C	引続き悪臭対策や立ち上げから運営についての採算性などを考慮し着手について見直しを行なう。	
プロジェクト3 地元農産物の販売促進と特産化	○町は、地元農産物の直売所を設置します。 ☆生産者は、生ごみ堆肥を活用し、安全安心な野菜の生産を実施します。 ☆町民は、地元農産物を積極的に購入します。	産業振興課	B	A				A	直売所の新設については、北部活性化を進める中で、検討していきたい。	

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となつて行う取組み

平成26年度	年間	環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成24～28年度）								
●重点プラン 3 地球温暖化防止対策の推進（地球にやさしい暮らしの実現）										
●目標	～みんなで目指す平成28年度の姿～ <input type="checkbox"/> 協働による自転車利用促進事業が継続実施されています。 <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止に積極的に取り組む町民・事業者が増えています。 <input type="checkbox"/> 太陽光発電システムを導入する住宅件数が増えています。 <input type="checkbox"/> 全ての行政施設でCO ₂ 排出量が削減されています。 <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーを導入した公共施設が増えています。									
～みんなで目指す平成28年度の姿～ 関連指標進捗状況		担当課	過去の状況					平成26年度	年間	
			H22	H23	H24	H25	H26	H27	整備状況	
関連指標	<input type="checkbox"/> 町（行政）施設の温室効果ガス排出量 1,070 t	環境防災課	1103	1062	976	901	1002		1002	t
	<input type="checkbox"/> 住宅用太陽光発電システム設置補助件数（累計）80件	環境防災課	37	75	118	158	169		169	件
	<input type="checkbox"/> 地球温暖化防止活動推進事業所数 10事業所	環境防災課	4	10	10	10	10		10	事業所
	<input type="checkbox"/> CO ₂ 排出削減活動の実践者割合（人口比）10%	環境防災課	0	0	0	0	0		0	%
	<input type="checkbox"/> 省エネ家計簿利用・報告者数 290人	環境防災課	140	240	276	276	276		276	人
プロジェクトの取組状況		評価 A: 100% B: 50～100%未満 C: 0～50%未満 D: 未実施								
プロジェクト名	取組内容	担当課	過去の評価				平成26年度 年間		評価	今後の課題
			24	25	26	27	取組状況			
プロジェクト1 「自転車のまち」の実現に向けた自転車利用促進事業の展開	○町内におけるレンタサイクルの定着化に向けた検討を行います。 ○安心・安全に利用できる環境の整備と利用者のマナー向上のための施策を行います。（歩行者・自転車の「ゆずりあい」の看板設置など） ○自転車・歩行キャンペーンやサイクルモニター事業を通じ、近距離の自転車利用を呼びかけます。 ○自転車のまちづくりの取組みを町内外に発信します。	企画政策課	A	A	B			B	○「自転車のまち開成」の町内外への発信	
		環境防災課（交通）	A	A	A			A	幼稚園、保育園、小学校での交通安全教室開催等の連携が図れているが中高生や自治会向けの普及啓発事業が手薄いことから松田警察署、交通指導隊と事業計画をする必要がある。	
プロジェクト2 家庭・事業所での地球温暖化防止運動の推進	○町は、情報提供等を通じて、町民・事業者の取組みを推進します。 ☆町民は、省エネ家計簿を活用したり、自動車利用の削減や自宅の緑化に努めるなど、自らできる地球温暖化防止活動を実施します。 ☆町民・事業者は「チャレンジ25キャンペーン」、「マイアジェンダ登録」に参加することで、温暖化防止に貢献します。 ☆町民・事業者は家庭や事業所での新エネルギー（太陽光発電等）の導入を検討します。	環境防災課	B	B	B			B	エコバリューセット補助金制度については、スマートエネルギーの技術の進歩や、ライフスタイルの変化も捉えながら、発展的に制度の修正を図る。	
プロジェクト3 地球温暖化防止実行計画の推進	○町は、行政施設の地球温暖化防止実行計画に基づき、「平成28年度に平成22年度レベルより全施設でCO ₂ 排出量を3%削減する」という目標の達成に向けて各施策を実施します。	環境防災課	A	A	A			A	現在の取組みの継続とともに、取組みの見直しも行き、改善を図る。	

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となつて行う取組み

様式2 環境基本計画進捗状況点検調書【重点プラン】

平成26年度	年間	環境基本計画進捗状況点検調書（重点プラン・平成24～28年度）										
●重点プラン 4 環境学習の推進（みんなが学び、行動できるしくみづくり）												
●目標 ～みんな目指す平成28年度の姿～ □環境学習会、環境フェア、環境講演会等の学習参加者が増えています。 □省エネ家計簿、町民環境調査、マイバッグ、エコドライブ、近距離自転車利用、生ごみ堆肥化事業、アジェンダ登録等のエコ実践行動者が増えています。 □町民が取組んだ結果を掲載したり、発表する場、頻度が増えています。 □町民が主体的、継続的に学習、調査の企画・実行できる仕組み。サポート体制ができています。 □環境調査や環境学習会の企画・実行が町から町民主体に移っています。												
～みんな目指す平成28年度の姿～ 関連指標進捗状況			担当課		過去の状況					平成26年度	年間	
					H22	H23	H24	H25	H26	H27	整備状況	
関連指標	□環境学習会等の開催回数 10回		環境防災課		5	5	7	6	3		3	回
	□環境学習会等の参加者数 1,500人		環境防災課		1000	517	1941	365	580		580	人
	□環境学習リーダー数 10人		環境防災課		0	0	0	0	0		0	人
プロジェクトの取組状況			評価 A:100% B:50～100%未満 C:0～50%未満 D:未実施									
プロジェクト名	取組内容		担当課	過去の評価				平成26年度 年間		評価	今後の課題	
				24	25	26	27	取組状況				
プロジェクト1 世代別関心テーマの 学習実践	○世代別学習ニーズの把握と学習方法の企画・実施に努めます。		環境防災課	B	C	C		子ども向けや親子で学べる機会として、町民環境調査、環境防災フェアを開催した（ホテルの観察会は研究会の意向で未実施）。 既成のイベント、講座が中心となっている。 世代別の様々なニーズや必要性等については、業務の中で町民からの意見も伺う数が少ない。県が実施する『環境学習リーダー養成講座』についても、応募や問い合わせもない状況である。		C	現実性も踏まえ、ニーズや必要性を考慮し、今後の対応について検討していく。	
プロジェクト2 世代別環境学習リーダーの養成	○環境学習リーダーの任命（専門テーマの登録）制度を検討します。 ☆環境学習リーダーは、基礎研修⇒応用研修⇒専門研修へのレベルアップを図ります。		環境防災課	C	C	C		県が実施する『環境学習リーダー養成講座』について、窓口や町委員への通知等で周知を行い、参加者を募った。しかし、参加者が集まらない。		C	環境学習リーダーの養成について、3年連続で参加者が集まらない現実も踏まえ、ニーズや必要性を考慮し、今後の対応について検討していく。	
プロジェクト3 学習リーダーによる 環境調査・環境学習会の実施	☆町民環境調査を町民主体で継続的に実施し、環境マップの更新を図ります。 ☆ごみ分別・リサイクル、エネルギー・省エネ、生活排水処理などの様々なテーマで環境学習会を町民主体で継続的に実施し、環境に関する知識や意識の向上を図ります。		環境防災課	B	B	C		町民環境調査については、ジュニアサマースクールに位置づけ酒匂川に生息する生物観察会を実施した。水質調査については、環境防災フェアのブースとして実施した。 もえるごみ混入状況調査については。		C	町民環境調査の実施内容や方法について、参加者の意見も取り入れ改善を検討する。 また、環境学習会については、ニーズを把握し、必要性も踏まえ、あじさい講座等の内容の充実を継続的に図る。	

○は町が主体、☆は主に町民や事業者が主体となって行う取組み